

(別紙様式)

# 令和 2 年度 学校自己評価システムシート ( 県立入間向陽高等学校 )

( A 3 判横 )

目指す学校像	「ひたむきに、おおらかに、たくましく」未来を生き抜く心身ともに健全な若人の育成
--------	---

重点目標	1 授業改善及び学習習慣の確立を通じた学習意欲の向上 2 行事等の実践を通じた主権者意識の育成及び自律的・基本的生活習慣の確立 3 生徒一人一人に即した進路選択とその実現 4 保護者参加と中学校・地域との連携強化による協力支援体制の確立
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 ( 8 割 以上 )
	B	概ね達成 ( 6 割 以上 )
	C	変化の兆し ( 4 割 以上 )
	D	不十分 ( 4 割 未 満 )

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 5 名 生徒名 2 8 名 事務局 ( 教職員 7 名 )
-----	---

学校自己評価		年度評価 ( 1 月 1 4 日 現在 )		学校関係者評価					
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<p>・生徒達の授業態度は大変落ち着いており、大部分の生徒が集中して取り組んでいる。生徒達は、わかりやすい授業に興味を強く引く授業を望んでおり、教職員には、これらの現状や要望を踏まえ、生徒が主体的に参加できる授業作りと授業改善の工夫が望まれる。また、大学進学をはじめとする生徒の多様な進路希望を念頭に置き、それらの土台となる基礎的な知識や思考力を養成していくことが必要である。</p> <p>・定期考査前の学習には、大半の生徒がよく取り組んでいるが、予習復習等の日常的な学習習慣が身に付いていない生徒も多し。現状を踏まえ、教職員は、引き続き生徒の学習習慣確立のための方策を模索し、実行していく必要がある。</p> <p>・生徒の進路意識は、高まりつつある。特に、科目選択については、将来の進路希望と結び付けながら、学習意欲の向上につなげていくことが大切である。</p>	<p>基礎的・基本的事項を重視し深い学びを促す授業改善の取り組み</p>	<p>・生徒アンケートの結果を踏まえ、より一層興味関心を引き出す授業を創出工夫する。また、生徒達が自ら考え、対話的で深い学びをめざした授業を模索していく。</p>	<p>・「初期学習指導」により、学習への動機付けができたか。また、課題や定期考査等の評価と生徒自身による学習の振り返りにより、日常的家庭学習の習慣化を進めることができたか。</p> <p>・科目選択にあたり、生徒達が自分の将来の進路を自覚しながら学習意欲を高めていけるような適切な情報提供と指導を行うことができたか。</p>	<p>・生徒アンケートの結果より、例年と変わらず授業への満足度が高い事が多かった。コロナ禍による臨時休業への対応として、classroomを活用した課題提示や授業動画の配信が行われた。休業明けの授業にもスムーズに移行できた。状況に応じて、各教員による授業改善や生徒参加型の授業実践が積極的に行われている。</p> <p>・臨時休業により全体での「初期学習指導」は実施できなかったが、各科目で学習への動機付けが適切に行われた。生徒は授業を大切にしており、定期考査の振り返りや予習復習への取り組みも前向きな傾向にある。</p> <p>・1, 2年生に対する科目選択ガイダンス等により、多くの生徒が自分の進路を意識しながら学習に取り組んでいる。2年生では科目別の動画配信を行った。</p>	A	<p>・生徒の意識・実態を把握しながら生徒の主体的な授業参加と学習習慣の確立に向けて一層の授業改善の努力が望まれる。生徒が主体的な授業を模索しながら、自らの課題を発見していけるような学習の振り返りと、進路実現する上での知識と学力を養成していくことが重要な課題である。</p> <p>・「初期学習指導」は、1学年だけではなく、学年を追って発展的に実施されることが望ましい。生徒の学習習慣の確立のためには、地道で継続的な取り組みが必要である。生徒の自己評価の視点を入れながら、授業改善に反映していくことが重要である。</p> <p>・引き続き進路指導部とタイアップしながら、科目選択ガイダンス等を通じて進路意識と学習意欲を結びつけていくような指導が必要である。</p>	令和3年1月29日	<p>自宅での授業、GoogleClassroomでの課題提出など新しい試みもあった。賛否が分かれる試みであったが、自分のペースで勉強することができ、時代に沿った新たな学校の在り方が提示されたと感じた。教員と生徒で問題点を話し合う時間、生徒同士の学びあいを深める場があるとうい。しかし、そのようなどを実現するためには、予習・復習等の学習習慣の定着が学校における授業を充実させるためには不可欠なことであり、生徒側の課題である。</p>
2	<p>・挨拶・礼儀など基本的生活習慣が身に付いている生徒が多く、落ち着いた学校生活を送っており、近隣からの評判も良い。</p> <p>・SNSの使用について、研修会等を実施することで問題の拡大を防止できているが、スマホ使用のマナーを含め、引き続き理解を深め、トラブル防止に取り組んでいく必要がある。</p> <p>・生徒アンケートの結果から、生徒の行事への期待は高い状態を維持している。行事をさらに発展させていくために、諸行事の原案作りにおいて、各生徒が目的や意義を再認識し、生徒会本部とHRとの結びつきを意識した企画づくりを深めていくことを通じて、「参加」「参画」へと発展させていく工夫を継続していく必要がある。</p> <p>・食堂と生徒間での会議を適宜設け、生徒の要望を反映させる活動を継続できている。生徒アンケート結果の分析をもとに、生活環境の向上に向けた議論を行う中で、主権者意識を引き続き育成していく必要がある。</p> <p>・部活動は盛んに行われており、8割以上の生徒が3年間部活動を継続している。活動の活性化と加入率の維持・向上に向けて、生徒会組織の横のつながりと、環境の整備に取り組んでいく必要がある。</p> <p>・入間向陽高校をよくする会で生徒が意見表明を行い、各HR代表やPTA、学校評議員と意見交換を行うことで自ら行ってきたことを振り返り、課題発見を積み重ねることができている。そのことが生徒会活動が単なる行事の実施ではなく、生徒会活動の在り方を探求することに繋がっており、生徒会活動の質を高めることになっていく。引き続き、HR討議を踏まえ取組を全校に広げること、そして主権者意識を育てていくことに繋げていくことが課題である。</p> <p>・修学旅行では、教科横断的に沖縄をテーマに戦争と平和、歴史と文化などに取り組み当分の平和学習、民泊等の文化体験に活かすことができた。また、人権学習では、各学年ごとにテーマを設定し、教科を横断しての人権学習を深めることができた。修学旅行の事前学習や人権教育でそれぞれの目的に沿った各教科を横断した取組は、効果が大きいため、引き続き、学年、委員会、教科で連携・協力を大切にしていく必要がある。</p>	<p>生徒一人一人の個性に即し、人間として望ましい資質の伸長を図る</p>	<p>・教員間の共通理解と協力体制の確立 (特に整容指導・挨拶防行、時間厳守について)</p> <p>・朝の登校指導、授業開始時の巡回の継続</p> <p>・定期的な整容指導の実施</p> <p>・社会生活におけるマナー向上指導の一つとして情報モラル研修会・非行防止研修会を企画し、自己の課題として考えさせる。</p>	<p>・共通理解と協力体制ができたか。</p> <p>・登校指導、巡回指導が継続的に実施できたか</p> <p>・教員間の共通理解のもと、整容指導を適切に行うことができたか。</p> <p>・自己の課題として考えさせる研修会が効果的に実施できたか。</p>	<p>・生徒の情報全体を共有するようにつとめ、生徒指導部・担任の連携を深めた。</p> <p>・日々の校門指導、授業開始時の巡回指導は今年度も全教員の協力を得て継続することができた。</p> <p>・各学期はじめに、学年ごとに整容指導をおこなった。</p> <p>・コロナ禍により、非行防止として行う薬物乱用教室は中止したが、情報モラル研修会は新しい形で行った。年度当初でなく二学期末になったことを除けば情報全般を広く考える上で有効だった。1月実施の「向陽高校をよくする会」での意見交換を通じて生徒会からも自身の生活習慣の問題として投げかけ、日頃の行動の見直しを促すようにしていきたい。</p>	A	<p>・落ち着いた教育環境を維持するために全教員の協力体制を維持していくことが重要である。</p> <p>・あいさつの励行等、社会生活におけるマナー向上を図る指導を継続させていくことが重要である。</p> <p>・SNS関連の問題は、今までの指導を見直しながらあらゆる場面で引き続き指導していかなくてはならない。</p> <p>・非行防止の観点も踏まえ、交通ルールや公共の場でのマナーを中心に自ら主体的に変えていけるような働きかけを検討する必要がある。</p> <p>・引き続き、行事の目的とHRとの結びつきを意識するとともに、全校生徒が主体的に参加する企画づくりや提案を実行していくことが必要である。また、来年度の諸行事についても日々変化する状況を精査しながら、横のつながりを大事にして柔軟な発想で検討していくことが必要である。</p> <p>・引き続き、生徒要望アンケートをもとに学校環境の向上に向けた主権者意識の醸成を図っていくとともに、今年度行った新たな試みに対しては、生徒の声を拾いながら協議し今後の運営に生かしていく必要がある。</p> <p>・引き続き、活動環境の整備に取り組んでいくとともに、今後さらに部活動の活性化と加入率の維持向上に向けて、新年度の取り組みの工夫や諸行事での横のつながりなどを意識した運営が必要と考える。</p> <p>・生徒が、生徒要望アンケートやHR討議を踏まえて、全校生徒参加を意識した生徒会活動の改善に繋げていくことが、コロナ禍の影響で学校生活が大きく変化する状況において一層大切なものとなっている。入間向陽高校をよくする会での意見交換が、そうした活動に繋がる課題発見の場となるよう準備・運営していくことが求められる。</p> <p>・生徒要望アンケートの分析結果や入間向陽高校をよくする会での意見交換が、本校生徒の現状についての教職員共通理解を深めることができるよう還元されていくことが課題である。</p> <p>・修学旅行、人権教育などの教科横断的な取組は、探求の取組みとして有効である。今後学校行事等も含め、探求的な要素を意図的に取り入れていけるよう工夫が求められている。</p>	<p>・SNSの問題については、ポスター掲示など引き続きの注意喚起が必要である。登下校のマナーについては、生徒の自覚が必要であり、呼びかけていきたい。</p> <p>・現在、世間では、LGBTが認知され始め、性別や見た目で見分けられることが問題視されている。女子のストラップ等についても検討して欲しい。</p> <p>・頭髪については、時代の変化もあるので整容指導の基準・進め方について説明が欲しい。生徒は、自分たちの要望だけではなく、リボン、ネクタイ等を直していく努力が必要ではないか。</p> <p>・生徒会では、臨時休業明けの月下旬より毎日会議を行い、向陽生に少しでも思い出に残るような行事はできないかと考え、全クラスによる映像コンペティションと文化部の発表を感染防止に最大配慮し非公開で行うこととした。生徒要望アンケートの感想からも向陽高校の行事は、向陽生が学校生活を送るうえで必要不可欠だと考えることができる。これからはコロナ禍でも全校生徒が全力で楽しみ、思い出に残る行事を企画していきたいが、今後、生徒会行事がなくなる場合は、生徒要望アンケート結果にあるように何故できないのか、全校生徒が納得できるように説明することが必要だと思ふ。</p> <p>・修学旅行については、コロナ禍で今までと違った修学旅行となったが、平和学習、文化体験、マリン体験などができ充実した3日間となった。</p> <p>・生徒会と学校が非常にうまくやれている。これからは先生方と生徒会が協力して学校を創って欲しい。生徒の意見に驚かされている。今回のモートも貴重な場となった。コロナ禍で1年間、生徒会、中央委員、先生方色々工夫をされてご苦労さまでした。コロナは誰も経験したことがない。向陽高校は、先生方、生徒が目標に向かって頑張ってきたことがよく分かった。いろいろなアイデアを出して保護者も協力したい。前回の話し合いが引き続き行われている。今回一般的な意見ではなく具体的な提案が多く聞かれた。</p>	
3	<p>・生徒の多様な進路希望を踏まえ、計画的な進路決定を可能にするために、進路指導を工夫する必要がある。</p> <p>・受験に耐える教養と学力を重視しつつ、受験環境の変化を踏まえ、生徒の実態に応じた対策が必要である。</p> <p>・スマートフォンの普及に伴い、生徒・保護者・教職員間での適切な情報の共有が求められている。</p>	<p>生徒一人一人を大切に、その進路実現を支援する。</p>	<p>・適性検査・職業人講話を通して社会性を培い、自己の在り方生き方を考えながら、自己理解と職業意識を育み、進路選択の課題を発見するための動機づけを推進する。また、各ガイダンスや進路先見学を通して、計画的に進路目標を設定させ、進路分野を選択させる。</p> <p>・授業を基本とし、補講や模試を実施して学力の向上を図る。自習室の積極的な活用を呼びかける。推薦受験対策として、小論文や面接練習に積極的に取り組むように指導する。</p>	<p>・生徒が自分の将来について考え、職業・上級学校についての必要な知識を深め、進路選択の動機づけを促すことができたか。</p> <p>・生徒が自主的・主体的に学習に取り組む。受験に必要な学力を身に付けるように指導することに寄与できたか。</p> <p>・適切な進路情報を生徒・保護者・教職員と共有することができたか。</p>	<p>・適性検査は事前指導丁寧に行い、進路意識を高めるとともに、「自己理解」を深めることができた。「職業人講話」では、職業に関する知見を広げ選択肢を増やす事ができた。2学年は、校内で「進路先見学会」を実施し、オープンキャンパスなどの具体的な進路対策への動機づけになった。</p> <p>・本校の受験形態の傾向を考慮し、小論文指導は1年次2年次早い時期から取り組んだ。自習室は4年目となり、多数の生徒の利用が見られた。一般選抜を目指す3年生にとっては、生徒同士のつながりの場ともなっている。模試と補講(向陽ゼミ)は、例年通り実施した。特に、向陽ゼミでは多くの生徒の申し込みがあり、生徒の学習機会の確保に効果が得られた。</p> <p>・「進路便り」は定期的に発行し、進路情報を発信した。臨時休校中には、Google Classroomを通じて生徒と保護者に進路情報を提供することができた。進路室は、多数の生徒の利用が見られた。</p>	A	<p>・適性検査と職業人講話は、事前指導の方法を工夫丁寧に行った結果、十分な効果が見られたため、次年度も引き続き行っていく。</p> <p>・小論文を使っての入試利用者が増加傾向にある中、指導する教員の負担も増えている。小論文指導の充実を図るために、引き続き、検討が必要である。</p> <p>・Google Classroomについては、進路情報や課題の提示に活用できた一方、対面のやり取りに比べて負担も大きく、生徒の反応も寂然とならぬため、オンライン上の指導方法について検討していく。</p> <p>・向陽ゼミに関して、進路決定に伴い、受講人数が減少する傾向が見られるため、上級学校での学習も見据えた内容も検討する。</p> <p>・リモートによる進路行事が初めて導入されたが、生徒がスマホを取りやすいなど、環境面の利点は少なくはないが、講師からの目線がなかったり、集中力の持続が難しいなど課題も残った。内容も含め、改善の余地がある。</p> <p>・進路行事の実施時期について、より効果的な分散の方法を探っていく。</p>	<p>・PTA行事も何もできなかった。コロナで学校とかかわることでもマイナスになることがあってはけないかと我慢してきた。5月の総会まで短く時間ですが、何ができるか学校とも相談して考えていきたい。</p>	
4	<p>・体育祭やマラソン大会の給水支援、正門前の花植えなどの活動が引き続き求められている。また生徒会活動・部活動等を支援する活動を通じて本校の教育活動が大きく支えられている。これらの活動を役員以外の方へ広げていくことが課題である。</p>	<p>保護者参加に基づく地域に開かれた学校づくりの推進</p>	<p>・本部役員・各委員会委員長と担当教員との連絡・協議を密にする。これにより、生徒理解を深めた、学校の実情に基づく取組ができるよう本部・各委員会の計画立案とその実行に関わっていく。</p>	<p>・本部・各委員会の計画立案に基づき、各担当が組織的に関わることができたか。</p>	<p>・Covid-19蔓延に対する政府・県教委からの通達により、今年度予定されていたほぼすべての行事が中止となった。実施できたものは朝の挨拶運動のみであった。正門の花植えは職員のみで行った。</p> <p>・理事・役員どうしの連携は、電話やメール等によって行われ、連絡体制はかろうじて維持されている。</p>	B	<p>・1学年の保護者にとりて、例年の行事を経験することが出来ず、来年度の運営が心配である。</p> <p>・大前提として、新入生の保護者の中から役員を引き受けてくれる方を選出することが例年より難しくなっている。</p> <p>・まずは役員の確保を第一の課題とし、経験のある現三年生の役員から現一、二年、新入生の保護者への引継ぎをいかにして行かなくてはならない課題となる。</p> <p>・その方策としては、電話・メール・ラインなどを駆使することが主となるを得ない。</p>		